

# しまなみロード

8月20日(木) ~ 8月23日(日)

IN しまなみ海道(尾道市マリンユースセンター、みやくぼ石文化交流館)

	午前	午後	夜
1日目	尾道に向けて出発	向島出発 ユースセンター到着	振り返り
2日目	サイクリング(因島、生口島、大三島、伯方島、大島)		振り返り
3日目	今治市へ出発	今治市内散策	フェリー乗船、振り返り
4日目	関西に到着・解散		

一日目： 自転車日和のもと、キャンプは始まりました。尾道より電車を乗り継いで、しまなみ海道のスタート地点である「尾道」へ向かいました。電車での移動中、たっぷり時間はあるので、自己紹介含め沢山会話をし、仲を十分に深めることが出来ました。尾道駅に到着し、昼食を済ませると、自転車を借りに向かいました。自分に合った自転車を見つけ、サドルの高さ調整を行い、試運転をしました。自転車に慣れてきたらついにしまなみ海道へ出発です。初めに渡る島は“向島”です。尾道から渡船で渡りました。渡った先からはひたすら自転車を漕ぎます。初日は慣らしも含めてなので、8kmほどで終わりました。宿泊地に到着し、汗をシャワーで流し、夕食を済ませるとこれから毎夜行う振り返りをしました。絵日記を作成するのですが、『過去・未来日記』という形で、今日の一日の振り返りをし、そこから翌日はどう頑張るのかを話し合い、日記にまとめました。明日は長丁場の一日です。しっかり休んで、頑張りましょう！！



二日目： 昨日はあまり体力の消耗が少なかったのでしょうか、起床時間前から朝から元気な声が聞こえていました。今日はとても長い距離を走るので、朝食をしっかりと摂り、元気よくスタートしました。天候も良く、海から涼しい潮風が吹いているので、とても心地よく走ることが出来ました。“因島”へ渡り、ノンストップで“生口島”へと渡りました。この島でお昼頃を迎えたので、大型スーパーに立ち寄り、自分達の食べたいものを選び、いただきました。選ぶ時は緊張もほぐれ、とても良い笑顔を見せてくれました。また、同島で海に入る機会もあり、暑い体を十分に冷やし、楽しむ事が出来ました。楽しい時間を堪能した後は、ひたすらゴールに向かって漕ぎ進みました。“大三島”、“伯方島”と次々を渡り、最後の島“大島”へ上陸しました。この島はアップダウンが激しく、且つ体力も少なくなっている事もあり、どのメンバーからも疲れが色濃く出ていました。しかし、そういった時こそ、元気よく声を掛け合い、後ろからサポートをされている姿に確かな成長を感じました。そして、最後の丘を上りきるとようやく宿泊地に到着しました。疲れもありますが、それ以上に喜びが大きいように感じました。昨日と同じ流れで、振り返りまでを済ませると、あっという間に就寝されました。心地よい施設にぐっすり眠る事が出来るかと思えます。明日はしまなみ海道のゴールです。



三日目： 疲れが溜まっているのでしょうか、起床時間ギリギリまで施設は静まりかえってました。起床後は元気な姿を伺え、身支度や清掃を済ませました。朝食をお腹いっぱい食べ、準備を完了させたらゴールの今治城に向かってスタートさせました。三日目となるとスムーズに走ることが出来、会話や景観を楽しむ余裕も出てきたようです。四国本土へ渡る「来島海峡大橋」の大きさに一同驚かれています。大橋を渡り終えると、四国本土に入り、今治市内に入りました。今治城はもうすぐと分かれると嬉しい気持ちがあるようですが、焦らず安全第一に進



まれる姿に安心を感じました。そしてついに、ゴールの今治城へたどり着きました。どのグループも大差なくゴールすることが出来ました。全体集合の写真を撮り終えると、夜の集合まで今治市内を観光しました。帰りを楽しみに待ってられる方や頑張った自分へお土産を購入しに、グループで相談し、行先を決めました。夕飯も各自で済ませるので、どこで何を食べようか話し合いました。昼食以上に笑顔が溢れており、和気あいあいとされていました。夜になり、自転車をターミナルに返却し、港へ移動しました。港に到着するとビルのような大きなフェリーが停泊しており、その大きさに眠気も吹き飛んだようでした。乗船すると中はホテルのように広く、豪華で、整っているため、更に大興奮の様子でした。入浴を済ませ、振り返りをしっかりと行った後、各自の部屋へ入ると、あっという間に静まり、寝息が聞こえてきました。明日起きると大阪に到着しています。



四日目： 目覚めるとフェリーは大阪に到着していました。身支度を整え、下船後朝食を済ませると、最後の振り返りを行いました。今回のキャンプで感じたこと、体験したこと、学んだことをこれからどう活かしていくのかを、じっくりグループで話し合いました。振り返りを終わると尼崎へ向かいます。地下鉄や電車を乗り継いで向かうのですが、徐々にいつもの現実に戻されていく感じに、少しの寂しさと溜まっていた疲労感からメンバーの表情から疲れを感じました。各集合場所にお迎えの方々に来られると、「楽しかった！！」と早速感想を述べられている様子が伺えました。本当にお疲れ様でした。



#### <キャンプ総括>

今年天候には一切悩まされずに催行する事が出来ました。気温は高かったですが、潮風が常に吹いており清々しい中走れました。参加者の人数が例年に比べて少なく、賑わいこそ劣っていましたが、グループの垣根を越え、一体感を感じるキャンプだったと思います。メンバー一人一人に意識を広く、深く向ける事が出来、体調や気持ちもいつも以上に把握することが出来ました。ただ、この動きにつきましては、人数や状況に問わず、出来ていかなければいけないとも感じております。その結果が、参加者皆様により安全で、安心して活動を提供出来ます。これからも日々邁進して参りますので、何卒よろしくお願い致します。 (竹中 哲郎)